

SOS300GA

## 国際社会演習 一 「国際関係」を問い直す一

今泉 裕美子

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界の諸事象・諸問題を国際関係学の視点と方法から分析する。具体的に述べれば、関心ある事象・問題を①それらが生起し展開してきた歴史のなかで、また②同時代に起きているさまざまな事象・問題との関係性のなかで、さらに③本学部の学際的な学習環境をいかして、分析する。最終的には各自が現代世界を支え、変化させてゆく存在としての自分の立場性と役割を見出す。

## 【到達目標】

- (1) 国際関係学の方法論を習得する。
- (2) 「国際関係」について、その成立から現代世界に至るまでの構造と動態を理解し、関連する概念、理論、思想を学ぶ。
- (3) 研究テーマの設定、資料収集、分析、発表、議論の方法を習得し、学術論文を執筆し、発表する。他のゼミ生、他ゼミのゼミ生（学部学会などにて）の研究にコメントができる。
- (4) 研究対象、これに関係する人びとと自分との関係性を理解し、現代世界を支え、変化させてゆく存在としての自分の立場性と役割を見出す。

## 【授業の進め方と方法】

2018年度春学期の共同研究テーマは「『わたし』たちにとつての2018年—150年目、70年目—から考える」、秋学期のテーマは春学期を踏まえて決定。春学期のテーマ説明は演習説明会で行うが、1年を通じて以下のように進める。

- (1) 共同研究の文献購読では担当者を割り当て、報告、議論する。フィールドワークを実施する。
- (2) 個人研究には中間報告会を複数回もち、ゼミ生同士の議論、教員からの指導を得て4年次末に研究論文を完成、ゼミ論文集を刊行する。
- (3) 学部学会で報告する（3年は共同研究、4年は個人研究を原則とする）。
- (4) 毎回授業最初に関心ある報道を1つとりあげて議論する。
- (5) 年間授業計画はゼミ生の関心、進捗状況によって一部変更する場合もある。

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	共同研究テーマの説明、授業の進め方、ゼミ運営について確認。
2	4年生、個人研究について中間報告	先行研究の整理、論文構成、序論提出。
3	文献1に基づく議論①	報告と議論。
4	文献1に基づく議論②	報告と議論。
5	文献1に基づく議論③	報告と議論。
6	文献1に関する補足資料を踏まえた議論④+春学期前半の総括	報告と議論、文献1の総括。春学期前半の総括。
7	研究テーマ設定、研究計画の立て方、学術論文の書き方を学ぶ（4年生担当）	3年生は論文の書き方を学び、4年生は研究過程と方法を振り返る。
8	文献2に基づく議論①	報告と議論。
9	文献2に基づく議論②	報告と議論。
10	文献2に関する議論③	報告と議論。
11	文献2に関する補足資料を踏まえた議論④	報告と議論、文献2の総括。
12	春学期の総括と秋学期のテーマ、フィールドワークのテーマ決定。	文献2を含めた春学期の総括。秋学期のテーマ、フィールドワークのテーマを決定し、フィールドワークの準備計画をたてる。
13	個人研究中間報告、夏休みの研究計画発表。	3年生は個人研究の最初の構想発表、4年生は中間報告。
14	フィールドワークの準備学習。	フィールドワークの方法の学習と、テーマに関する準備学習。

## 秋学期

回	テーマ	内容
15	秋学期のオリエンテーション。ゼミフィールドワークの総括。	秋学期の共同研究テーマと進め方を確認。フィールドワークの成果報告と総括。
16	個人研究について中間報告、研究計画提出	3年生、4年生の夏休みの研究成果報告、進捗状況に基づく研究計画の修正。
17	文献3に基づく議論①	報告と議論。
18	文献3に基づく議論②	報告と議論。
19	文献3に関する補足資料を踏まえた議論③+秋学期前半の総括	報告と議論、文献3の総括。秋学期前半を総括。
20	個人研究について中間報告	3年生は先行研究整理と調査報告、4年生は論文の半分以上を書き上げて報告。
21	文献4に基づく議論①	報告と議論。
22	文献4に基づく議論②	報告と議論。
23	文献4と補足資料に基づく議論③と総括	報告と議論、文献4の総括。
24	学部学会準備報告	3年生による共同研究のプレ報告、4年生の個人研究のプレ報告。
25	学部学会報告の総括	準備や報告内容、学会で得たコメントに基づく今後の改善点を共有、検討。
26	文献5に基づく議論①	報告と議論。
27	文献5と補足資料に基づく議論②	報告と議論、文献5の総括。
28	秋学期および1年の総括。	秋学期および1年の総括の議論。次年度の共同研究テーマ決定。ゼミ論提出。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 文献などに関する報告では担当者がテキスト以外の関連文献も読み、レジュメを作成。報告者以外にも疑問点は調べ、意見を準備。
- (2) 個人研究は中間報告会で報告し、自主的に教員から指導を受けることを義務づける。関係機関での調査、聞き取り、フィールドワークを実施する。第一・第二外国語を活用する。
- (3) 共同研究ではフィールドワークの企画・実施（昨年度は北マリアナ諸島サイパン島）。
- (4) 関連するシンポジウムや講演会、映画、博物館などに積極的に足を運ぶ。

## 【テキスト（教科書）】

○国際関係学に関する基本文献

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

○学術論文の書き方

斉藤孝他『学術論文の技法』（新訂版）日本エディタースクール出版部、2005年。

その他、授業時に提示する。

## 【参考書】

授業時に提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

ゼミの共同研究に関する報告と議論（50%）、個人研究に関する報告、レポート及び研究論文執筆（50%）。前者は準備、司会、発言、授業後の補足調査、学部学会での発表。後者は調査、分析、中間報告会での報告、自主的に論文指導を受ける、学部学会での発表、中間レポートや最終提出の研究論文及び口頭試問の内容を対象とする。提出物の締切りに遅れた場合、特別な理由（期末試験のルールに則る）以外は未提出として扱う。

## 【学生の意見等からの気づき】

個人研究と共同研究の両立を意識した年間計画としている。

## 【その他の重要事項】

- (1) 3年、4年を継続して受講する。4年への継続は、3年次末の論文構想発表会でテーマ決定、課された準備を行い得た学生にのみ認める。
- (2) 「国際関係学概論Ⅰ・Ⅱ」は必ず受講し、研究テーマに応じて国際社会コースを中心に同コース以外の授業も積極的に受講し、「学際的」に課題を追究する方法を学ぶ。地域研究から国際関係学の方法を学ぶために今泉担当「アジア・太平洋島嶼国際関係史 A、B」（ILAC）、「オセアニアの政治と社会Ⅰ・Ⅱ」（法学部の他学部公開科目）受講を薦める。
- (3) やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由（証明書など）を提出すれ成績評価に考慮する。
- (4) 本ゼミでは個人研究とゼミ共同研究が密接に関連する。両者を両立させ、責任をもってゼミ運営に関わり、協力しあえる学生を歓迎する。

管理 ID：  
1805007  
授業コード：  
C1126